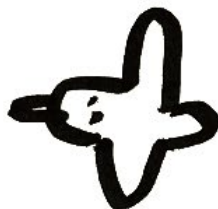
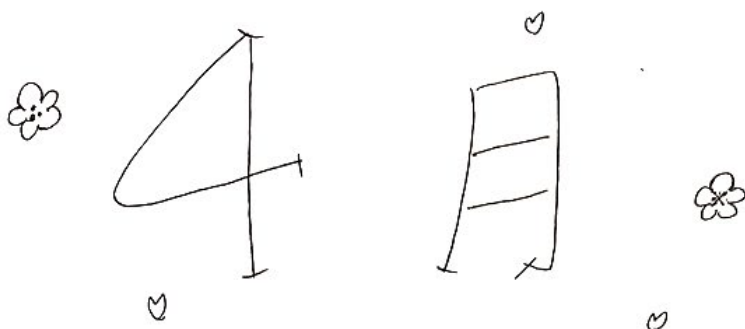


とよ・たち美肌通信

4月号 vol.165



うた



今月号のとびとち美肌通信の表紙には  
いろんな動物達が集まっている絵です。

みんなでお花見をしているのですかね。とても  
楽しそうです。ブランコで遊んだりお花とびや  
石で山を作るのが好きで絵を描くことが  
趣味の女の子が描いてくれました。  
側転もできて、バイオリンも弾ける人です。おーい!!

ありがとうございます。

院長はじめ スタッフ一同。こゝろ感謝  
いたします。

中華唐の時代李白という詩人がいた。唐代のみならず中華詩歌史上最高の存在とされた歌人の言葉にこうある。「天、我が材を生ずる必ず用あり」。ここで言う材とは身体の意である。つまり天は自分をこの世に生み、天がもたらした自分には必ず何か用、即ち役割、使命があるはずだとされる。せつかく人間としてこの世に生を受けたのであれば「天は自分に何をしろと言うのだらうか」ということを見つけていなければいけない。その使命があると解釈できる。それにどう気づくか。どの様にその使命を見つけていけば良いのか。

中華明代の思想家である陳白沙<sup>ちんぱくさ</sup>の言葉にはこう記されている。「人間から心、道理を取ってしまうとひと包みの膿と血の袋、大きな骨の塊にしかすぎず、鳥や獣と何ら変わらな。別言すれば人は志や理想を持って初めて人と成る、これらを持つことが先に述べた用を知るための前提だ」とも言え様。

用とは換言すれば「仕事」である。生涯の仕事に精いっぱい打ち込むこと。そして不思議と趣味では人間性は磨かれなるとも先達等は異口同音に説かれている。

人間は仕事を通じてしか自分を磨くことは出来ない。

仕事を生活のためだけにやっている人と天に命じられた  
仕事と心得て打ち込んでいゝる人とでは、3・5・10年後  
とその人生の充実度は大差となって表われてくることは、  
自明の理であろう。これらに加え大切と思うことがある。  
それは長く続けることである。

小さなことを積み重ねることが、とんでもないところへ行く  
ただ一つの道だとイタローは言った。

一つのことを黙々と繰り返して継続していくと大きな  
力がついてくる。一道を貫いた者だけが味わえる世  
界であり、自らの用に目覚めるとは正にこれを指すの  
であろう。

昨今は、腐るな・敗けるな・へこたれるなとか厳しい  
ことを禁句としている風潮が大勢を占めるが、今の日本が  
存在しているのは戦後歯を食い縛って西洋列強に  
肩を並べられる様に生きてこられた先人達のお陰  
であり、彼等は間違ひなく夢や理想を掲げ、  
それを実現すべく用に打ち込んでこられたから  
に疑う余地はない。

院長、拝